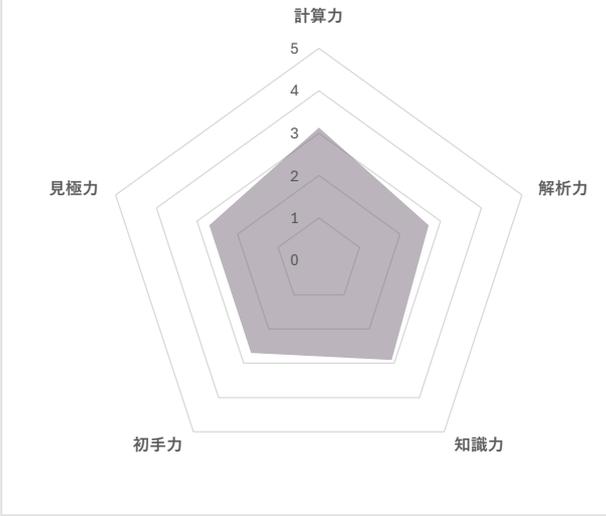


総合分析

試験区分 N方式二次

制限時間 60分 大問数 全3問

合格に要する能力（5段階）



合格に要する能力（5段階）

能力	スコア	説明
計算力	2.9	高度な計算をやり遂げる力
解析力	2.5	問題文を正しく読み取る力
知識力	2.7	解くことに必要な知識の量
初手力	2.5	初手の難しさ
見極力	2.5	解きやすい問題を選択する力

特記事項 特になし

出題分野

数学 I	0%
数学 A	0%
数学 II	8%
数学 B	0%
数学 III	92%
数学 C	0%

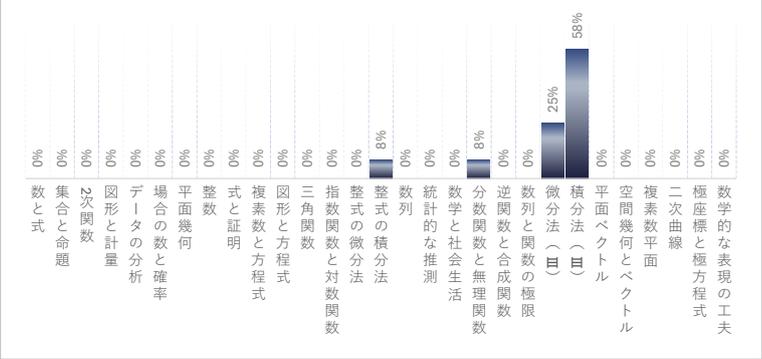
本年度 解答形式

論述 100%

本年度出題テーマ一覧

第1問	積分計算
第2問	回転体の体積
第3問	回転体の体積

本年度 出題詳細分類



特殊問題の有無	記述あり	証明なし
統計なし	数Ⅲあり	長文なし

総合評価

難度	2.6	最難を5とする問題自体の難度	標準	一次合格に必要な正答率（予想）	90%
分量	47分	完答に要する時間（制限時間は60分）	やや少ない	極めて高い正答率を要する	

入試の特徴と対策

- ▶ 使う知識は難しくないが、計算量が多い。面倒でも常に自力で求値しよう。
- ▶ 入試問題としてありふれた題材が多い。単純に演習量で十分に対策できる。
- ▶ 少ない単元の知識で解けるものが多い。単元ごとに公式を確認しておこう。
- ▶ 代数的な問題の比重が高い。日ごろから答えを出し切る訓練が必要である。

入試から見る 大学が求める学生像

昨年度に続き、数学Ⅲの微積分中心の出題であった。解きづらい問題は1問もなく、通常を受験生の知識があれば困ることはないだろう。このことから高得点勝負になることは間違いなく、正確性に長けた学生を求めていると考えられる。